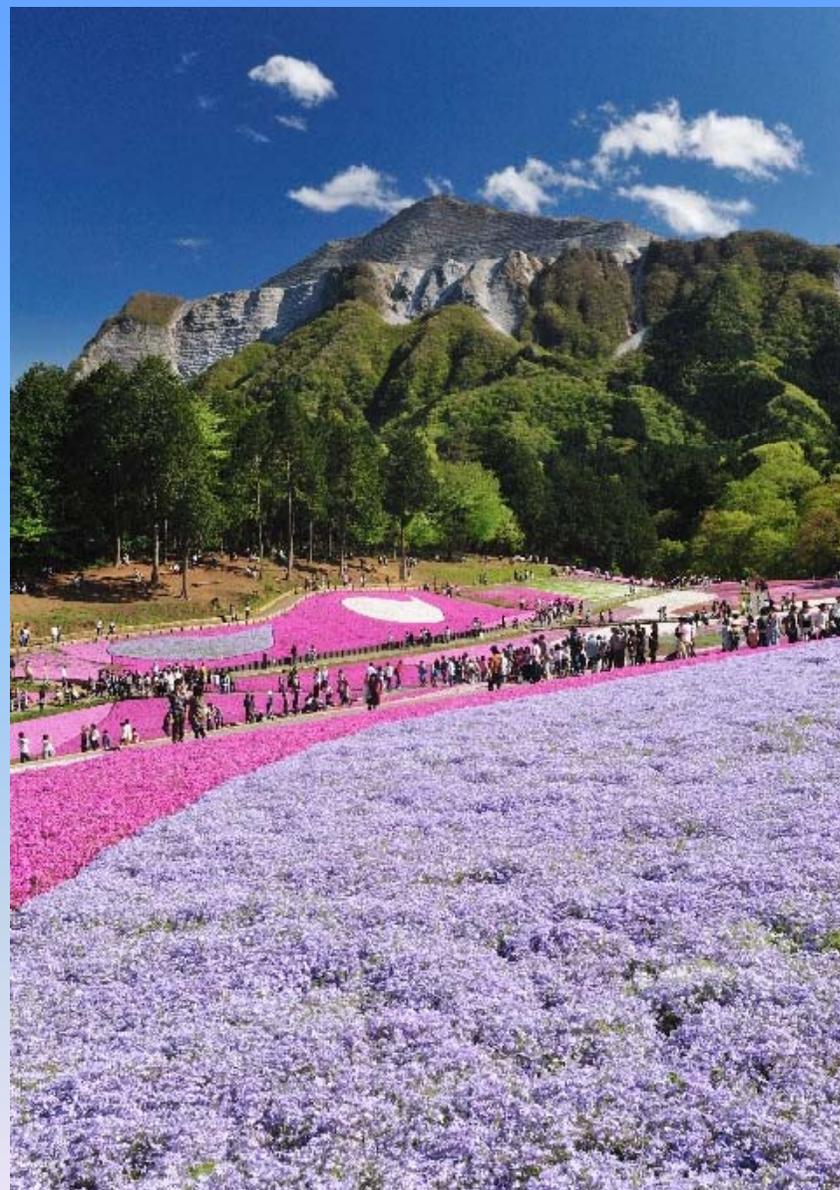


ちちぶ 定住自立圏構想

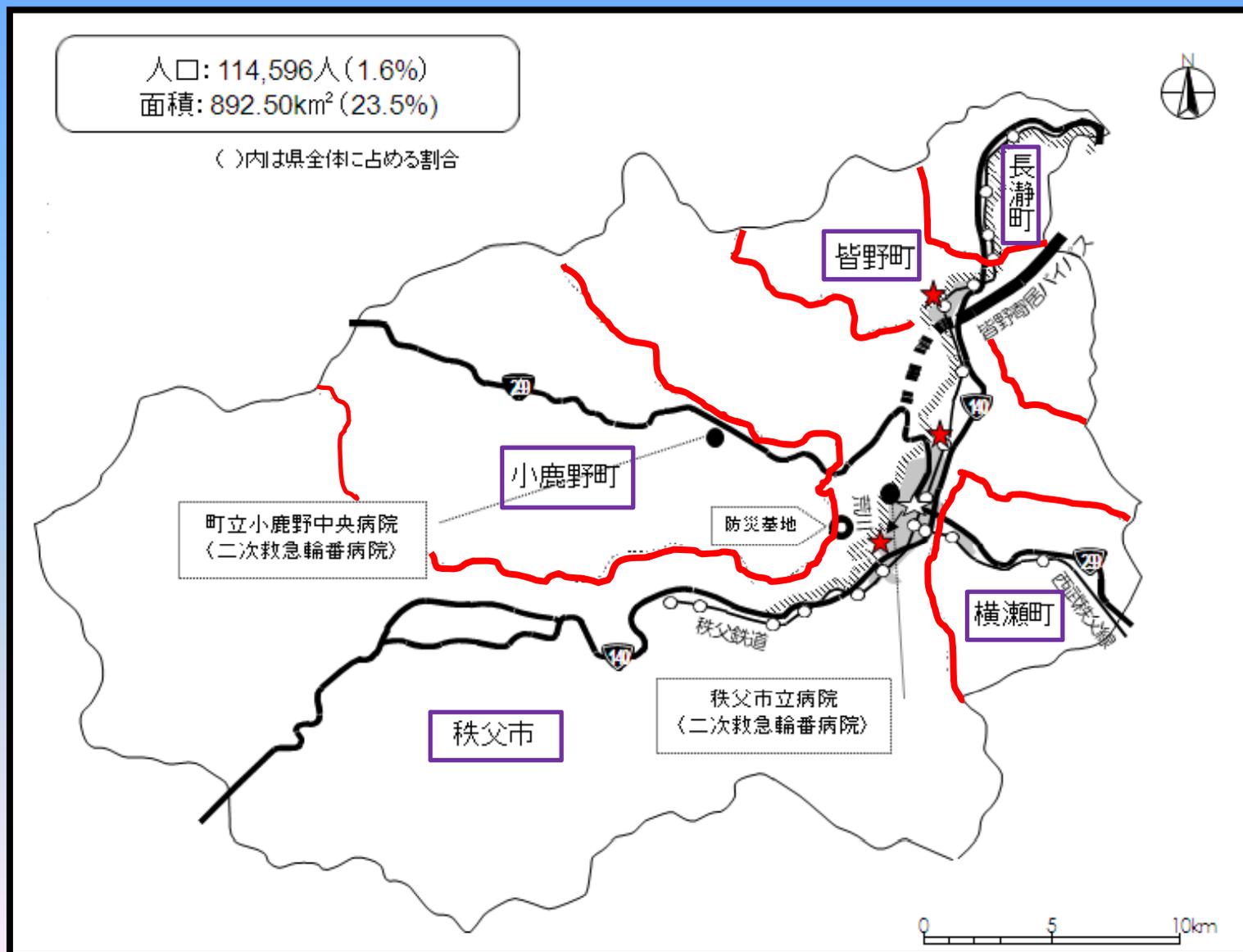
定住自立圏推進セミナー
事例発表

平成22年3月23日(火)
秩父市長 久喜邦康



秩父圏域

秩父市・横瀬町・皆野町・長瀬町・小鹿野町
人口減少と財政の硬直化



ちちぶ定住自立圏のこれまでの取組と今後の予定

平成20年10月28日 秩父市が**先行実施団体**として選定

平成21年3月19日 「ちちぶ定住自立圏**中心市宣言**」を策定、公表

5月1日 久喜邦康秩父市長就任

5月20日 **ちちぶ定住自立圏研究会・ワーキンググループ**発足

※ワーキンググループは持ち回りで5回開催

※この間1市4町首長会議、市町議会の説明を実施。

8月18日 **1市4町首長会議**（9月協定項目決定）

9月25日 ちちぶ定住自立圏**形成協定調印式**

※5分野8項目のみ締結

10月～12月 協定項目の**追加締結**に向けワーキンググループ開催

平成22年1月 共生ビジョン策定に向けた市役所内協議

2月1日 **1市4町首長会議**（3月協定項目決定）

※随時、各市町議会に説明

2月25日～3月11日 第1～3回**共生ビジョン**懇談会開催

2月～3月 1市4町**3月議会追加締結項目**の議案上程

3月24日 ちちぶ定住自立圏**推進委員会**発足

3月下旬 共生ビジョン策定、公表（予定）

ちちぶ定住自立圏構想の推進体制

ちちぶ定住自立圏を推進するために、地域住民の方々や1市4町のご協力の下、**研究会とワーキンググループ**を組織している。

- ちちぶ定住自立圏研究会** ⇒ 各首長、各議長、県地域振興センター所長を含めた「**ちちぶ定住自立圏推進委員会**」に発展的改組
- ・市町の定住自立圏構想担当課長と県秩父地域振興センター地域調整幹で組織。
 - ・ちちぶ定住自立圏の進捗状況の確認、連絡調整を行う。
 - ・月1回程度、1市4町持ち回りで会議開催。

- ちちぶ定住自立圏ワーキンググループ**
- ・圏域内における課題の研究、定住自立圏形成協定案や共生ビジョン案の作成。
 - ・1グループあたり 地域住民代表3～5名、市町の行政職員各1名、必要に応じて埼玉県や広域市町村圏組合の職員で組織。
 - ・月2回程度、1市4町持ち回りで会議開催。

※現在設置しているワーキンググループは、**10グループ**

- ・地域医療連携
- ・観光連携
- ・ジオパーク
- ・産業振興
- ・教育力向上、子育て支援
- ・自然環境保全・活用
- ・地域公共交通
- ・地産地消による農林業振興
- ・情報ネットワーク
- ・都市住民との交流促進

定住自立圏形成協定

★平成21年9月で締結した協定項目 5分野8項目。

- ①**医療**(医師・医療スタッフの確保・負担軽減、救急医療体制の充実、リハビリテーション体制の充実)
- ②**ICTインフラ**(秩父圏域情報化の推進、地域情報共有システムの構築準備)
- ③**都市住民との交流**(交流及び移住促進事業の実施)
- ④**水道**(秩父圏域における水道事業の運営の見直し)
- ⑤**人材育成等**(圏域外の専門家の招へいなど)

★22年3月までに 10分野19項目 の締結をめざす。

- ①**福祉**(保健福祉事業の充実、子育て支援及び児童福祉の充実)
- ②**教育**(生涯学習の充実、保護者の学習に関する事業の充実)
- ③**産業振興**(滞在型観光の推進、外国人観光客の増加、秩父まるごとジオパークの推進、圏域内の企業の支援体制の充実、有害鳥獣対策の推進、)
- ④**環境**(環境保全の推進)
- ⑤**地域公共交通**(誰もが利用しやすい公共交通の推進)

事例発表 1

地域完結型医療をめざして

～救急診療の充実～



医療の現状

<公立病院> 2病院 260床
・秩父市立病院(秩父市) 165床
・小鹿野中央病院(小鹿野町) 95床

<民間病院> 7病院 617床
・秩父市内5病院
 (救急輪番病院 1病院)
・皆野町内2病院
 (救急輪番病院 1病院)

<診療所> 69施設

民間医療機関にはそれぞれの診療科目の専門医が診療している。



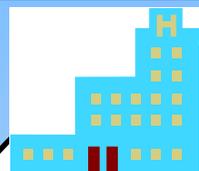
課題

- ① 2次救急病院(救急輪番病院)の減少
(H7年 7病院 → H21年 4病院
→ **H22年 3病院**)
- ② 医師、医療スタッフ等の不足
- ③ 公立病院の経営不振
- ④ 圏域内 医療間連携が不十分
- ⑤ リハビリテーション医療への期待

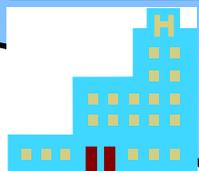
医療の現状

現在(平成21年度)の
二次救急輪番病院の状況
4病院

秩父市立病院



小鹿野中央病院



医師不足、医師負担増により、年度末に輪番制から脱退

＜二次救急輪番制＞
平成4年は7病院の輪番制だったが、民間の3病院が撤退し、**4病院**となる。



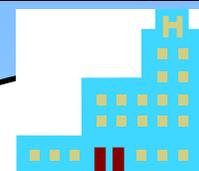
秩父病院



皆野病院

平成22年度の
二次救急輪番病院の状況
3病院

秩父市立病院



＜二次救急輪番制＞
割当日の増大により、
二次救急体制の**弱体化**が
懸念されている。



秩父病院



皆野病院

二次救急
体制**崩壊**
の危機

定住自立圏構想による医療体制の充実

医療体制の充実・発展



定住自立圏構想での取り組み

- ① 公民の**医療連携強化**による**救急医療体制**の充実
- ② 回復期**リハビリテーション**機能の充実
- ③ 医師、医療スタッフ等の**人材確保**に向けた取組の充実
- ④ 病院経営アドバイザーによる**経営健全化**



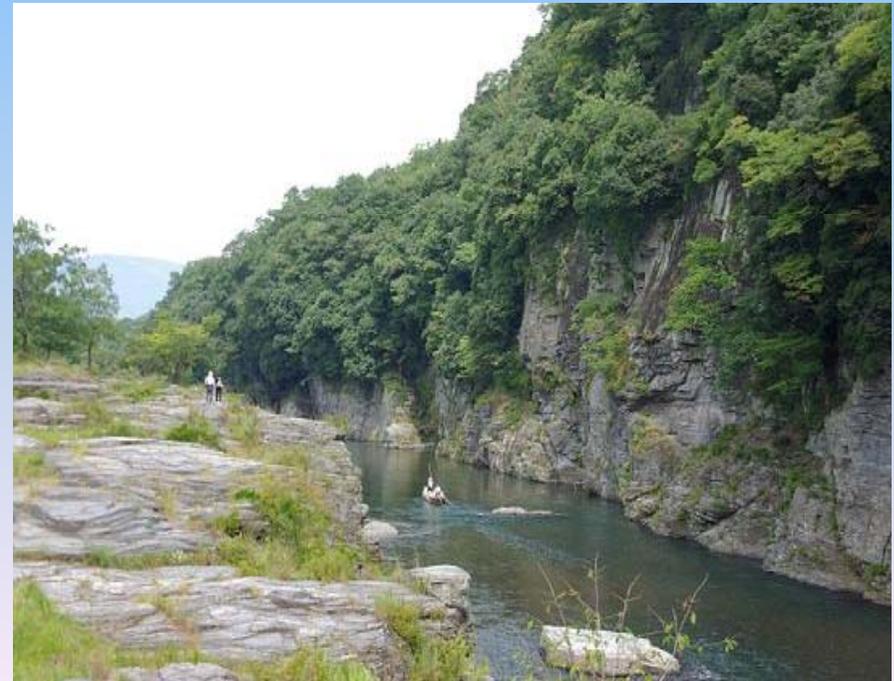
県の取り組み

- ① 県地域保健医療計画
秩父保健医療圏の
重点取組事項の改定
- ② 24時間**ドクターヘリ**体制運用開始
- ③ 定住自立圏等**民間投資促進交付**
活用による民間病院の充実

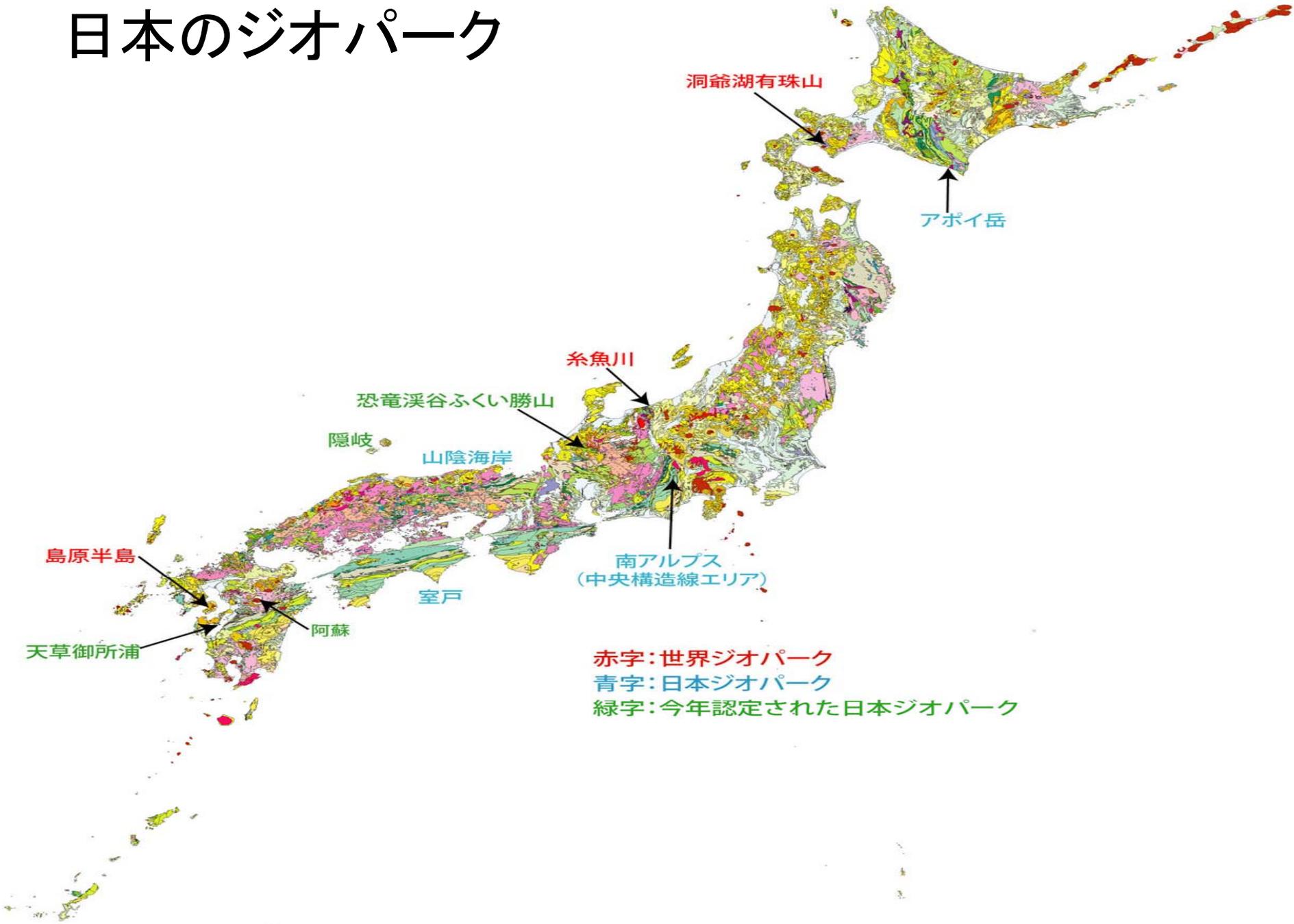
事例発表 2

秩父まるごとジオパーク ～地質資源を生かしたまちづくり～

秩父には、
長瀨岩畳、
橋立鍾乳洞、
前原の不整合、
ようばけ など
数多くの地質遺産があり、
日本の地質学発祥の地



日本のジオパーク



赤字:世界ジオパーク
青字:日本ジオパーク
緑字:今年認定された日本ジオパーク

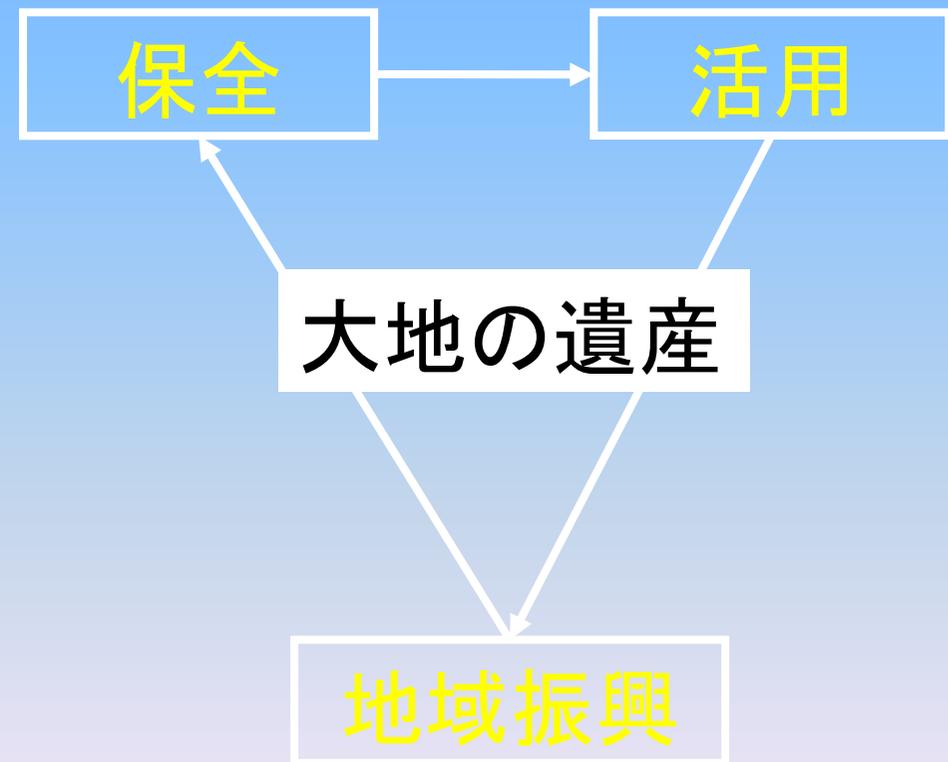
秩父まるごとジオパークを推進する理由

- ① 数多くの地質遺産、原生林、希少野生動植物の生息・生育地、洞窟遺跡などの考古学的サイトがあり、奥秩父山地の縦走路、札所などのツーリズムが盛んである。
- ② 地質学の長い伝統があり、
「日本の地質学発祥の地」
- ③ 公立・私立の博物館や資料館、ビクターセンターなどがあり展示・普及活動が行われている。
- ④ NPOの活動がさかん。秩父にエコミュージアムを目指す「秩父まるごと博物館」をつくる活動もあり、来訪者に紹介する「ちちぶ学検定」や観光ガイドの取組みがあること。

秩父まるごとジオパークの推進

ジオパークの理念

- ① 地形・地層などの大地の遺産を**保全**する
- ② その価値を地元の人がよく知り、わかりやすく訪問者に**伝える**
- ③ **観光**で地域経済が**活性**
- ④ **地域が豊か**になり大地の遺産をより良く**保全**



ジオパークへの秩父の取組

ジオ(地質)を通して人が集う
パーク(公園)をめざす
石や地層だけでなく
生態系、人間の文化・伝統まで
発展させる



- ① 秩父のジオサイトの調査・マッピング
- ② 各地のジオを連結させ物語をつくる
- ③ コース選定・案内看板設置・広報誌発行
- ④ 語り部をつくる(人材育成)
- ⑤ 観光産業に結びつけ地域活性化
- ⑥ 教育に展開し後生へ伝承



秩父まるごとジオパークの推進体制

平成22年2月2日(火)

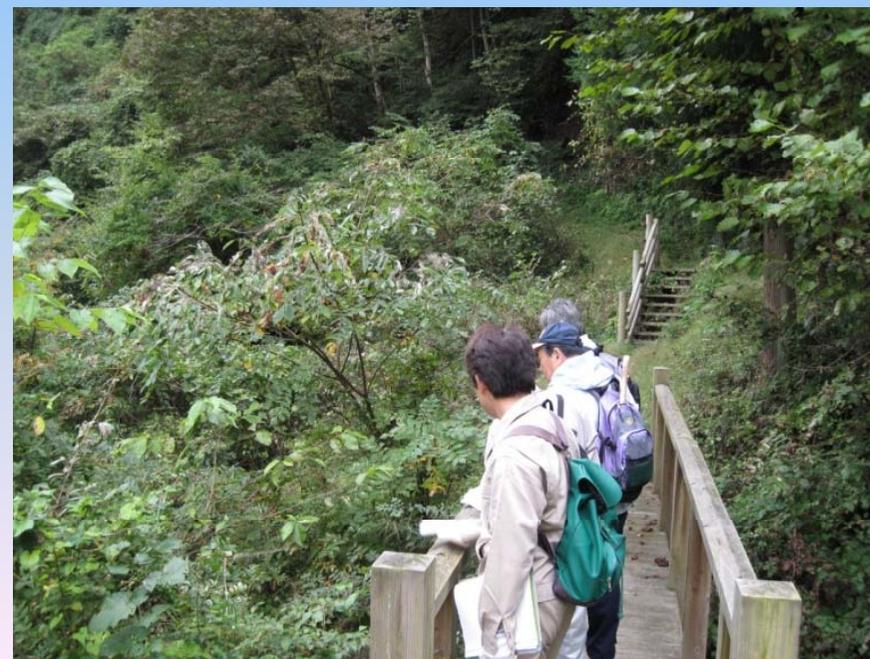
「秩父まるごとジオパーク推進協議会」を発足



推進協議会発足後の活動

ジオパークについての理解を深めていただくためのイベント・広報活動を実施

- ・ジオサイト観察会
- ・ジオパーク講演会
- ・ジオサイトバスツアー
- ・秩父まるごとスローウォーク など





ご静聴ありがとうございました。